

2020 年 7 月 22 日

担当者: 岩崎

貿易書類 原本主義残る

日本DXの 課題 経済界に聞く

貿易実務では船荷証券や決済の信用状など、書類の提出を求められるケースが多い。原産地証明や検疫証明も原本主義が残る。新型コロナウイルスの対応でテレワークを進めた一方、提出書類のための交代出勤も必要となった。

国際的な取引を電子上で終えても、日本で税務申告の紙をプリントする作業が必要になっている。業務全体をデジタル化できるように関係官庁や銀行、海運会社などと取り組んでいく。

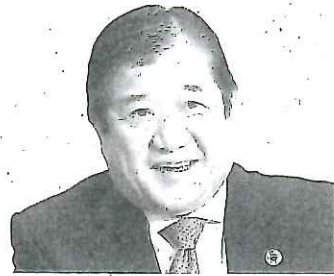
今春から移った新社屋ではペーパーレス化を徹底した。米マイクロソフトのTeams（チームズ）を標準とし、経営会議も取締役会も資料は

すべて電子化している。ちなみに東京にいるのは会社人生で初めてだ。海外出張は物理的にはできないが、2カ月で50回オンライン出張をこなすし、各国社員の声を集めた。デジタル化の推進で、現地に責任者がいなくても当座の対応はできるようになった。

インド三井物産の新社長は前任地のアラブ首長国連邦（UAE）の都市封鎖で出国できなかった。オンライン会議などを使い、UAEから指揮を執った。

ただ、南アフリカと日本では7時間の時差がある。日本に一時帰国した駐在員に海外時間のまま働いてもらったが家族がいても昼夜逆転になってしまうなどグローバル企業ならではの難しい面がある。

海外向けの営業では旧知の取引先なら良いが、信頼関係が大切なのでいざれ会いたいと私も伝えている。今後は在宅勤務する社員の評価方法を含め、デジタルとリアルへのストミックスを探っていく。



三井物産社長
安永 竜夫氏

◆
新型コロナウイルス対応をきっかけに、デジタル技術を生かした変革（デジタル・トランスフォーメーション、DX）の遅れがあらわになった。経営者に課題と対応策を聞いた。
(随時掲載)

2020 年 7 月 22 日

担当者: 榎野

仏炭素黒鉛製品
メーカー買収完了
東海カーボン
東海カーボンは21日、
フランスの炭素黒鉛製品

メーカー、カーボン・サボワ（CS）の買収が完了したと発表した。17日付で株式譲渡契約を締結し、すべての手続きを完了した。

CS社はアルミ精錬用電解炉のライニングに使用する黒鉛化カソードや熱交換器や耐熱用途向け特殊炭素製品を手がけている。東海カーボンは4月に独子会社トーカイ・コベックスと共同で、CS社の持株会社であるカーボン・サボワ・インターナショナル（CSI）の全株式を取得し、子会社することを発表していた。今回の買収完了にともない、CSI社を「トーカイカーボン・サボワ・インターナショナル」、CS社を「トーカイカーボン・サボワ」にそれぞれ社名変更する。

2020 年 7 月 22 日

担当者: 小松

QRコードをかざすだけ (YouTube動画)



NECプラットフォームズ

「スマホで給油オーダー」 導入SSが増加



紙幣の入金などのわずらわしさから解放 (YouTube動画)

NECプラットフォームズ(本社|東京都千代田区神田司町)は「スマホで給油オーダー」を四月一六日から販売しており、現在導入SSが増加傾向にある。予定していた三年間で千システムの販売も視野に入ってきた。

同システムは、計量機前に立ち、端末操作をし、注文を行うのではなく、家や車の中など場所を選ばずスマホから注文ができ、SSに到着したらQRコー

ドを読み込むだけで、注文機のパネル操作が必要なくなった。特に新型コロナウイルスの対策として「硬貨を触る」「紙幣を触る」など、現金に直接触ったり、不特定多数が使うタッチパネルを操作したりすることに對して、過半数が気にしているアンケートデータもある(カンム調べ)。

また同システムの紹介は、YouTubeのNECプラットフォームズ公式に公開されており、アニメーションと声優を起用したことで、周知が広まってきたようだ。

【動画】YoutubeのNEC
プラットフォームズ公式
<https://www.youtube.com/watch?v=CVnovevwKTU>

2020 年 7 月 22 日

担当者: 榎野



モスバーガーで遠隔での接客対応するロボット「ゆっくりレジ」を実験導入

佐原和也 (編集部) 2020年07月14日 17時26分

シェア 29 ツイート 一覧 2 note
印刷 メール 保存 クリップ

モスバーガーを展開するモスフードサービスは7月14日、オリイ研究所と協力し、分身ロボット「OriHime」(オリヒメ)を活用した「ゆっくりレジ」の実験導入を発表した。実験は7月27日から8月下旬までの約1か月間の平日、モスバーガー大崎店にて行う。人手不足の解消に対応するためとともに、レジ対応するキャスト(店舗スタッフ)がその場になくても、注文時の対応を介した、人と人のあたたかいコミュニケーションの実現を目指すことを目的としている。



「OriHime」の設置イメージ

実証実験は、モスバーガー大崎店の店頭に時間限定(平日14~18時)でOriHimeを1台設置。会話を楽しみながらじっくり商品を選びたい方に向けたゆっくりレジを稼働。パイロット(OriHimeを分身としてリモートで会話や動作を行う人)は、客と会話しながら注文の受付を担当し、決済は有人レジにて行う。今後、システムを改良することで、OriHimeを通じて注文から決済までを行えるよう機能を拡張する予定という。

OriHimeは全長約23cmの分身ロボットで、子育てや介護、身体障がいなどの社会的ハンディキャップにより外出困難な人の分身として、遠隔地であってもあたたかみのあるコミュニケーションを可能とする。実験期間のパイロットは、関西在住の障がいのある方2名が担当予定。OriHimeのそばにパイロットのプロフィールを紹介する案内掲示を設置することで、客とパイロットのスムーズな会話を促すという。

モスフードサービスでは、今回のゆっくりレジの成果をもとに、ドライブスルー注文への応用や、自走式ロボットによる配膳業務などを検討していく計画。これらについても、2020年度内の実験開始を視野に入れていくとしている。

引用記事 : 日本経済新聞 ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報

毎日新聞